



物流ニッポン

2009年(平成21年)

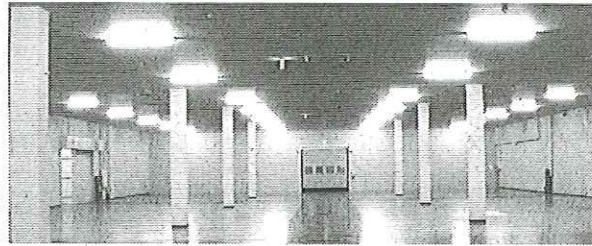
2 | 12 (木)

発行/月曜日・木曜日 第3200号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2009 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

西日本エリアの供給体制を強化し提供写真



北房第2センター稼働

【エーザイ】医薬品在庫積み増し

【沢田顕嗣】エーザイ化する。

物流(成瀬登社長、神奈川県厚木市)は一日、北房第2センター(岡山県真庭市)を稼働させた。新型インフルエンザのパレンデミック(大流行)に備えて医薬品の在庫を積み増しているほか、新規業務受託で既存センターが手狭になったため、拠点を新設して西日本エリアの製品の供給体制を強化し、室温での保管は減少やPHS端末機による温度計付き製品追跡管理システムを採用することにも、バラ製品の箱詰め作業をチェックする監視カメラも導入する。

エーザイ物流は「hmc(ヒューマン・ヘルスケア)」を理念に掲げ、生命関連品を取り扱う企業としての社会的使命を果たすため、「日本の物流品質」を目指している。地震や災害時に対応するため、緊急性の高い製品をラックの最下段に保管。検品業務にはバーコード技術やPHS端末機による温度計付き製品追跡管理システムを採用することにも、バラ製品の箱詰め作業をチェックする監視カメラも導入する。

ホームセンターの配送拠点の二区画を賃借し、一億二千万円を投じて改修工事を行った。鉄骨造の平屋建てで、床面積が三千五百平方メートル。冷蔵庫(六百六十平方メートル)を備えている。

さらに、親会社のエーザイと共同で医薬品業界初のICタグを利用した物流高度化に取り組んでおり、将来的には同センターでもICタグを駆使した管理システムを構築する方針。

このほか、厚木エリアでも六月をメドに床面積三千三百平方メートルの新センターを開設する構想を進めている。